

テレビ会議システムを用いたオセアニア地域研究の授業の試み
——『太平洋諸島の歴史を知るための60章——日本とのかかわり』を教科書とした
事前学習と授業でのキーワード解説を組み合わせた授業構成——

田所聖志
(東洋大学社会学部)

1. はじめに

本稿は、テレビ会議システムを用いたオセアニア地域研究の授業構成の一例を紹介するものである。具体的には、2020年度に秋田大学国際資源学部資源政策コースに在籍する大学3年生向け科目「資源地域研究（オセアニア）」で実施した授業構成についての報告である。

大学での授業構成の方法や工夫は学校教育の分野で議論されてきた。近年では筆者の専門とする文化人類学でも論考や報告がなされている（e.g. 飯塚・園田・田中・大石 2020; 箕曲 2021）。本学会のニューズレターにおいて、オセアニア地域研究の授業の事例を報告することも、大学等で類似した授業を実施する会員にとって多少の役に立つと期待できる。また、2020年1月から始まる新型コロナウイルス感染症の蔓延によってテレビ会議システムを用いた授業が日本中の大学で続けられている。教育環境の変化に対し、大学教育に関わる会員の方々は、授業運営について独自の工夫をし、またその改善を目指していると思われる。その意味で、本稿は、大学教育に関わる会員の参考に資することを目的としたい。

オセアニア地域研究を大学の学部生に講義する場合、なによりもオセアニアの魅力やこの地域の特色を学ぶことのおもしろさと意義を伝える工夫が必要である。そのため、毎回の授業における講義のプロットの展開が、受講者にとって分かりやすく魅力的なものとなるよう準備する必要がある。一方、テレビ会議システムを用いた授業では、受講者は、パソコンの画面を長時間集中して見つめる必要があるため、疲れやすく飽きやすい。この欠点をできるだけ解消する工夫も必要である。

授業構成にあたり、上記2点を考慮した結果、2種類の工夫をすることにした。1つ目の工夫は、オセアニアの魅力を学べることで、かつ受講者に最適な教科書を選び、その内容に依拠した授業運営を目指した点である。担当講師が毎回の講義のプロットを準備するのではなく、教科書のプロットを利用するという形である。この目的のため、教科書には『太平洋諸島の歴史を知るための60章——日本との関わり』を選んだ（石森・丹羽 [編著] 2019）。同書を選んだ理由は、刊行年が新しく最新の情報が記載されていること、比較的安価であったこと、歴史の観点からオセアニアの地域的特徴を描くという本書の視点が明確で分かりやすいと思ったこと、1章が4ページ程度

と短く受講者である学生たちにも読みやすいと判断したこと、題材が多岐に渡りオセアニアの魅力を伝えやすいと思ったこと、地下資源開発をテーマに筆者が寄稿した第48章の内容を受講者に教えたいと思ったことである。なお、本稿では同書を『太平洋諸島の歴史を知るための60章』と略記する。

2つ目の工夫は、授業に関わる知識伝達の半分以上を、授業の開始前に事前学習として受講者各自による教科書の購読に依拠することにした点である。そして、授業では、教科書で登場したキーワードの解説をできるだけ短時間で担当講師が行った上で受講者同士が意見交換をし、これらを通じて受講者が理解を深める形式とした。担当講師の解説の分量と時間を抑えることで、テレビ会議システムの利用によって生じる受講者の疲労の軽減を図ったのである。

この授業形式は、事前学習における課題への取り組みと授業でのキーワード解説を組み合わせた授業構成といえる。大きな特徴は、通常の「説明（講義）→課題（演習、宿題、レポート等）」という授業構成を、「課題→説明」に変えた点にある。この「課題→説明」という活動順序によって学習効果が上がったという事例報告もある（バーグマン／サムズ 2014: 8）。また、事前学習に重きを置く点で類似した授業運営の報告もある（勝間田ほか 2017）。念のため書き添えると、この授業形式は反転授業（flipped classroom）とは異なる。本稿で紹介する授業形式では、事前学習に加えて授業でも知識伝達が行われるのに対し、通常、反転授業とは、知識伝達は事前学習のみで行われ、授業は受講者同士の議論が中心となる授業形式を指すからである（cf. 溝上 2017）。

なお、本稿で取り上げる上記科目のカリキュラム上の位置づけは、2単位の専門科目・選択科目である。授業を実施した秋田大学国際資源学部は、鉱物エネルギー資源産業の専門家を養成する教育を行っている。本科目の授業目的は、「受講者が、海外での活動が多い鉱物エネルギー資源産業の専門家に求められる知識や技術のひとつとして、鉱物エネルギー資源開発地でもあるオセアニア地域を理解するのに必要な基礎知識と異文化理解の視点を身につけること」である。また、2020年度の授業のテーマは「日本との関わりから見るオセアニアの歴史・文化・社会」であった。

2020年度の受講者の数は23人であった。授業対象である秋田大学国際資源学部資源政策コースに在籍する大学3年生は1学年30人程度である。授業開始時、受講者全員は互いによく見知った者同士であった。この点は、後述する授業でのグループディスカッションの円滑な運営に影響を与えた。本科目は、第1クォーター期間中、2コマ連続で実施されている。新型コロナウイルス感染症の蔓延の影響で始業時期が遅れたため、授業の実施期間は2020年5月11日から6月29日であった。

2. 授業構成

(1) 授業全体の構成

授業は、事前学習、授業、事後学習の3部構成とした。概要は下記の通りである。

1. 事前学習

- ①「読書資料」の学習課題・学習内容の説明を読む
- ②教科書の対象章の読解
- ③「読書ペーパー」の作成、提出

2. 授業

- ④担当講師によるまとめ・質疑応答（遠隔授業）
- ⑤担当講師によるキーワードの解説（オンデマンド教材の学習）
- ⑥受講者による意見交換（遠隔授業）

3. 事後学習

- ⑦授業を踏まえた「ミニツツペーパー」の作成、提出

初回授業において、上記の構成を受講者に説明する際、図1を使って説明した。

なお、この授業構成は、国立情報学研究所が「4月からの大学等遠隔授業に関する取組状況共有サイバーシンポジウム」という名称で実施してきたオンラインでの連続シンポジウムのうち、2020年4月24日に開催された「【第5回】4月からの大学等遠隔授業に関する取組状況共有サイバーシンポジウム」で発表された山田政寛氏（九州大学）の発表「授業デザインから考える成績評価——オンライン型授業で変わること・変わらないこと」を参考に考案した（cf. 山田 2020）。

（2）事前学習

事前学習は、『太平洋諸島の歴史を知るための60章』から選択した事前課題の対象章を読み、「読書ペーパー」と題したミニ課題を提出することとした。この際、受講者が課題に取り組みやすくするため、事前課題として読む対象章に関する読書の手がかりを与えた。具体的には、対象章と関わる学習課題を設定し、その学習テーマに関わる概説を記した「読書資料」と名付けた資料を配付した。読書資料には、(1) 学習課題、(2) 学習テーマの概説、(3) 読書ペーパーの問題文の3点を記載した。具体的な例として、第8回の授業の読書資料を図2に提示した。

(1) 学習課題は、できるだけ簡潔で単純なものとなるように注意した。例えば、初回の学習課題は、「先史時代の資料から分かる太平洋と日本の関わりについて考える」というものである。各回の学習課題を表1に記載した。

『太平洋諸島の歴史を知るための60章』は、ひとつの章の分量が少ないため、4章程度の複数の章を事前課題の対象章とした。章のまとまりの選択にあたって、内容の関連性と統一性を重視した。同書の各章は異なる題材を扱っていながら、隣接する各章は共通性も多く見られたため、学習課題を比較的作成しやすかった。

(2) 学習テーマの概説は、学習課題と各章の導入となるような短い文章を用意した。この文章は、できるだけ簡潔な内容となるよう心がけた。意識的に担当講師の個人的

な経験にも触れ、受講者が身近な事柄と捉えられるような導入文の役割を果たすことを狙った。

(3) 読書ペーパーの問題文は、自由かつできるだけ容易に発想できるものとした。例えば、初回の読書ペーパーの問題文は、下記のようなものであった。

「先史時代の資料から分かる太平洋と日本の関わりについて考える」という課題に関し、教科書テキストを読んで考えたり思いついたりした内容をまとめなさい。課題として作成する文章の分量は 200 字から 400 字とした。

(3) 授業

授業は、前回授業の感想や質問への担当講師のリプライ、キーワードの解説、受講者同士のディスカッションと内容紹介、担当講師のコメントという構成にした。

キーワードの解説は、事前課題の対象章で出てきたキーワードから選んだものを中心とした。キーワードは、補足の解説をすることにより教科書の内容やオセアニアの地域的特色の理解がより深まると思われたもの、担当講師である筆者の専門性からよりよく説明できるもの、筆者が特に関心をもったものという観点から選択した。取り上げるキーワードの数は、その都度異なった。

1 回の授業の流れは、次の通りである。授業の最初に手短かに前回の授業に対して寄せられた感想や質問についてのリプライを行った。次いで、キーワードを解説した。その後、受講者が 3 人 1 組のグループに分かれ、学習課題と関連したディスカッションを 7 分間行った。グループの人数とディスカッションの時間は、何度か試して受講者の感想を聞いて上記にした。グループディスカッション後、受講者全員が再び集合し、各グループで話題となった事柄について、グループ代表者が手短かに紹介し、それに対して担当講師がコメントを述べた。最後に次回の学習課題を確認して終了である。

グループディスカッションのテーマは、毎回、次の通りとした。「読書ペーパーで書いた内容と授業教材で学んだ内容を元に、おもしろかった点と疑問点について話し合いなさい」。この課題設定によって、受講者は事前学習をしないと受講者同士のディスカッションに参加しにくいという構造をつくり、事前学習への取り組みを促した。

授業形式は、テレビ会議システムを使った遠隔授業と LMS (学習管理システム: Learning Management System) を用いたオンデマンド教材の学習を組み合わせで行った。キーワードの解説は、オンデマンド教材の学習とした。それ以外は、テレビ会議システムを使った遠隔授業を行った。グループディスカッションは、テレビ会議の参加者を複数のグループに分けてセッションを開催する機能を用いて行った。

キーワード解説は、Microsoft PowerPoint で作成した資料を PDF 文書に変換し、LMS に掲示した。また、キーワードを解説する音声ファイルも掲示した。音声ファイルは、筆者が現地調査で使用しているボイスレコーダーに音声を吹き込んで作成した。動画の作成も検討したが、急な対応を迫られたため、時間の余裕がなかった。また、

PDF ファイルと音声ファイルの組み合わせでも授業目的を果たせると判断した。キーワード解説をオンデマンド教材の学習としたのは、授業開始時に受講者の通信環境の詳細が不明であったため、遠隔授業によるデータ通信量や利用料の増加を極力抑えようとしたためである。受講者が聴きやすいよう明瞭に録音するために外部マイクを使った。使用した機材はオリンパスのボイスレコーダー（Voice-Trek V-863）と単一指向性モノラルマイクロホンセット（ME52W）である。

遠隔授業時のテレビ会議システムのビデオ機能の利用は、データ通信量の抑制のため最小限とした。受講者は基本的にビデオをオフとし、担当講師は授業の最初と最後のみビデオをオンにして1分程度話した。また、グループディスカッションでの受講者のビデオ機能の利用は、受講者同士の合意に任せた。受講者によると、ほとんどの受講者がビデオ機能を利用していたという。授業開始時、受講者は既に知り合い同士であったからであると思われる。

（４）事後学習

事後学習は、授業での解説および受講者同士のディスカッションに基づいて文章を作成する内容とした。具体的には、「意見交換の内容」、「授業で学んだこと」、「授業の感想」の3点について200字から400字程度でまとめた文章をLMSで提出するという課題である。この課題を設定することにより、受講者は授業を遅刻・欠席しにくいという状況を作り出した。

（５）課題の提出の締め切り

上記の授業構成では、1回の授業につき、毎回、事前課題と事後課題の2回課題を提出する設定となっている。この場合、受講者が提出課題を未提出のまま溜めてしまう危険がある。これを回避し、受講者が毎回、滞りなく提出するサイクルを確立しやすくするため、回転を早くする工夫をした。

工夫の一つは、課題で提出する文章の文字数を200字から400字として受講者の負担を軽減したことである。もう一つの工夫は、締め切りまでの期間を短くしたことである。具体的には、事前課題である読書ペーパーの締め切りは授業日の朝9:00、事後課題であるミニッツペーパーの締め切りは授業日の翌日朝9:00とした。

3. 授業時のキーワードの解説

（１）各回の授業タイトル・事前課題の対象章・学習課題

各回の授業タイトル、事前課題の対象章、事前課題で提示した学習課題は、表1の通りである。対象章の列に記載した数字は、『太平洋諸島の歴史を知るための60章』の章番号を意味する。対象章にはコラムも含めた。各回の授業タイトルは、事前課題

の対象章の内容を参照しながら筆者が考えた。

事前課題で示した学習課題は、できるだけ簡潔な質問形式で提示するよう心がけた。こうすることで、受講者が事前課題の対象章を読む際に、学習課題の質問に対する自分なりの答えを探しながら読み始めることができると考えたからである。また、上述した通り、事前課題を提示した「読書資料」には、学習課題に加え、学習テーマの概説の文章も加えた。これを用意したのは、学習課題のみが提示されるよりも、導入となる文章があることで対象章を読み始める際の受講者の気持ちの負担を軽減できるのではないかと思ったからである（具体例は図2を参照）。

(2) キーワードの解説と資料作成

各回の授業時に取り上げて解説したキーワードは表2の通りである。

毎回、取り上げたキーワード数は異なった。最小は第2回授業の3個であり、最大は第9回授業の10個であった。キーワードの説明には、スライド数枚を使った場合もあるため、一概にキーワードの数と教材の分量が比例していたわけではない。

キーワードの解説の内容を考えるにあたり、基礎的な情報の伝達という点を重視した。また、筆者のこれまでの具体的な経験を盛り込むことを心がけた。また、毎回のキーワードの解説には、動画を使った解説を必ず入れた。音声ファイルを使って口頭での説明を聞くだけでなく、動画も視聴することで、受講者の授業受講にメリハリをつけようと考えたからである。動画資料は、インターネット上にあるYouTubeなどの無料の動画サイトやニュース動画を活用した。

キーワード解説の資料は、授業の実施前日までにLMSにアップロードした。なお、念のため書き添えると、キーワードの解説資料のLMSへのアップロード、インターネット上の動画へのリンク情報を授業資料の一部として提示することは、2020年4月に施行された改正著作権法第35条で認められている。

資料を作成する際、授業内容の流れをつくる点から次の4点を意識した。(1) 資料の構成を毎回同じにする。(2) 受講者が地理的配置をイメージしやすくなるよう繰り返しオセアニアの地図を提示する。(3) 授業終了時に受講者がオセアニアの国々について学べられているよう、順次、各国の要覧を提示する。(4) 毎回のキーワード解説の最初に、その回のキーワード全体と関連する話題やコメントを提示する。

(1) キーワード構成を毎回同じにしたのは、受講者が学びのサイクルを確立しやすくするためであった。

(2) のオセアニアの地図の提示が特に有効であったと思われたのは、第8回から第10回までの太平洋戦争をテーマとした3回の授業である。これらの授業では、毎回、太平洋戦争の戦線の変化と同時に、アメリカ軍の侵攻と日本軍の撤退の進路を地図で示しながら、各国の要覧を提示した。

(3) 各国の要覧を順次提示したのは、オセアニアの国々をめぐっていくような授業

の流れをつくろうと思ったからである。

(4) さまざまなキーワードの全体を関連づけるような話題や問いを最初に示したのは、キーワード解説のみでは授業の内容が散漫になると思ったからである。例えば、第4回「日本人移民」の授業では、「なぜ、明治時代に日本人は海外に移民に出かけたのか」という問いを提示し、担当講師の個人的な見解として「日本はまだ発展途上国だったから」という答えを提示して若干の説明をした。また、第8回「太平洋戦争(1)」の授業では、「戦争とはどのような時代だったのか」という問いを最初に提示し、「第二次世界大戦は、短期間に世界中の多数の若者が出身地を離れ、異国の見聞を積んだ時期でもある。異文化間の交流や対立が、戦争という特殊な状況下で進んだ」というコメントを担当講師の個人的な意見として紹介した。なお、上記の2例の見解に疑義を持つ読者もいるかもしれないが、いずれも担当講師の個人的な見解として受講者に説明し、また、受講者に考えるきっかけを与えようとあえて提示したものである。

(3) 受講者へのリプライ

キーワードの解説に対して、受講者から様々な質問が寄せられた。担当講師として筆者は、不明であった点もできるかぎり調べて対応するようにした。だが、どうしても分からなかった点があり、本学会の会員である研究者の方に問い合わせして答えを教えてもらったこともあった。

具体的には、『『太平洋諸島の歴史を知るための60章』の第16章に、「サタウル島から土方久功が引き上げたきっかけが、2人の日本人の殺害事件だった」と書かれているが、この事件を詳しく知りたい」という受講者からの質問であった。これについて、ミクロネシアを対象に歴史人類的研究を続けている飯高伸五氏に問い合わせたところ、清水久夫『土方久功正伝—日本のゴーギャンと呼ばれた男』(東宣出版、2016年)の記述などをもとに、詳細なご回答を頂いた。次の授業で、飯高氏による解説として、その回答を披露したところ、受講者から好評であった。

受講者にとって、授業を通じて浮かんだ疑問に対して第一線の研究者から回答が届くという経験は、刺激的なものであったと思われる。ご協力頂いた飯高氏にこの場を借りてお礼申し上げたい。

4. おわりに

以上の通り、今回の授業では、事前学習における課題への取り組みと授業でのキーワード解説を組み合わせた授業構成を試みた。

良い授業の要素のひとつとして、教える内容が受講者にとって分かりやすく飲み込みやすいプロットで構成されている点もあげられるだろう。大学の授業科目は、小学校から高等学校までの学校教育科目と異なり、授業の内容構成に一定の統一性がある

わけではない。その点が担当講師の専門性を活かせる点で大学教育の最大の魅力である一方、良い授業プロットを作り出すことは簡単ではない。

今回提示した授業構成は、教科書の読解を中心とする事前学習に知識伝達の大部分を担わせており、授業内容のプロットを教科書に依拠している。そのため、この授業構成には、良い授業プロットを作り出す担当講師の負担を軽減させ、授業内容の説明により力を注ぐことができるという側面もあるように思われる。

また、『太平洋諸島の歴史を知るための60章』に収録されていた各章の話題が幅広かったため、キーワード解説という形で豊富な話題を提供できたのではないかと筆者は考えている。受講者からの反応もまざまざであったように思う。授業評価でのコメントには、「オセアニアはあまり馴染みのない地域だと思っていたが、日本との関わりが大きいものだと学べて興味を持つことができた」や、「南洋諸島の理解が進み、国際情勢や資源の目線から物事を考えるうえで活かせる情報が多かったように感じます」等があった。

今回の「課題→説明」という授業構成、およびテレビ会議システムを使った授業の流れは、ある程度、受講者の学びにとって有効に機能したように思われる。授業評価でのコメントには、「Zoom講義という初めての試みだったが、上手に回せていて分かりやすい授業で受けている側としてもとても有意義な時間だった」や「学生たちに負担が少なく、かつグループの話し合いもできるように工夫されていて良いと思います」といったものが寄せられた。

反省点は、当初の予定よりも地下資源開発に関する話題提供をできなかった点である。受講者は地下資源開発について学んでいる大学生であったため、その点により引きつけた授業内容とすべきではなかったかと感じている。実際、授業評価でのコメントには「さらに資源に寄った話が聞きたかった」というものもあった。

この点を考慮すれば、授業の内容と構成は、授業科目のカリキュラム上の位置づけをより意識して作り込むことが必要であると思われる。特に、オセアニア地域研究をテーマとした科目がカリキュラムにある場合、多くの場合は選択科目であると思われる。科目が開講されている学科の教育目的を意識し、オセアニアという地域が持つ多様な魅力的な側面のうちから適切な側面をより照らし出していくことが必要であろう。

オセアニア地域研究の授業の構成には多様なあり方がある。本稿で紹介した授業構成は一例に過ぎず、改善の余地も大いにある。だが、会員の方にはオセアニア地域研究の授業に携わる方も多く、また、テレビ会議システムを用いた講義の取り組みは今後も継続される可能性が高いことを考慮し、本稿を執筆した。

<謝辞>

本稿の草稿に対して丹羽典生氏（国立民族学博物館）からご助言を頂きました。記して感謝申し上げます。

<参考文献>

バークマン、J./S.サムズ

2014 『反転授業——基本を宿題で学んでから、授業で応用力を身につける』上原裕美子訳、オデッセイコミュニケーションズ。

飯塚宜子・園田浩司・田中文菜・大石高典

2020 「教室にフィールドが立ち上がる——アフリカ狩猟採集社会を題材とする演劇手法を用いたワークショップ」『文化人類学』85(2): 325-335。

石森大知・丹羽典生（編著）

2019 『太平洋諸島の歴史を知るための60章——日本とのかかわり』明石書店。

勝間田仁・大橋裕太郎・中村一博・橋浦弘明・松浦隆文・石原次郎・山地秀美

2017 「事前学習と課題への取り組みを中心とした初年次プログラミング教育の実践」『工学教育』65(5):42-47。

箕曲在弘

2021 「新大久保をフィールドとした『社会調査および実習』の軌跡——多文化共生に向けた生活史調査の授業運営方法」『東洋大学社会学部紀要』58(2): 79-93。

溝上慎一

2017 「序 アクティブラーニング型授業としての反転授業」森朋子・溝上慎一（編）『アクティブラーニング型授業としての反転授業』ナカニシヤ出版、pp. 1-15。

[インターネット資料]

山田政寛

2020 「授業デザインから考える成績評価——オンライン型授業で変わること・変わらないこと」(https://www.nii.ac.jp/news/upload/20200424-6_Yamada.pdf) (2021年6月12日閲覧)

段階	教員側のアクション	受講者側のアクション
事前学習	授業1週間前に授業資料をアップロード。	①授業資料を読む。 ②教科書の読解。 ③「読書ペーパー」の作成と提出。
事前準備	Zoomのミーティングルーム準備。 WebClassの課題提出ボックスを整備。 授業教材のアップロード。	
授業	Zoomのミーティングルームへ誘導。	④ライブでつながる。
	課題のおさらい。 質疑応答。	④質問する。
	授業教材の提示。	⑤授業教材を閲覧。
	ブレイクアウトルームを作成、誘導。	⑥ブレイクアウトルームに入室。 ⑥読書ペーパーの内容の共有・紹介。課題に関するディスカッション。
	課題のまとめ。	
授業直後		⑦「ミニツツペーパー」を執筆し、提出する。

図1 授業構成とその流れ

注) 図中の“Zoom”は遠隔授業で利用したテレビ会議システム、“WebClass”はLMS(学習管理システム: Learning Management System)を指す。「ブレイクアウトルーム」とは、Zoomの機能のうち、テレビ会議の参加者を同時進行で複数のグループに分けて開催するセッションを指す。

「資源地域研究（オセアニア）」（2 単位） 2020 年度 （2020/6/8）

「日本との関わりから見るオセアニアの歴史・文化・社会」

第 8 回 太平洋戦争（1）

田所聖志

1. 学習課題

「兵士としての日本人の戦争経験、戦場に住む現地の人々にとっての戦争経験にはどのようなものがあるか」。

6/8 8 : 太平洋戦争（1） : **22～26**

※数字は教科書の章の番号。

2. 学習テーマの概説

今回の学習課題は「兵士としての日本人の戦争経験、戦場に住む現地の人々にとっての戦争経験にはどのようなものがあるか」です。今回、日本人の戦争経験者として漫画家の水木しげるが紹介されます。彼の戦争経験とはいかなるものであったのでしょうか。私は大学院生の時に東京都の調布市に住んでいました。水木しげるも調布市在住であり、彼が町を歩く様子をよく目にしました。パプアニューギニアに滞在した経験者として親近感を持ったことを覚えています。

一方、戦場に住む現地の人々の戦争経験とはいかなるものであったのでしょうか。私はパプアニューギニアで現地調査をしていた時、おばあさんから「私の父は日本軍と一緒に戦いに行き、帰ってこなかった」と伝えられたことがありました。太平洋戦争をテーマとした小説、ドラマ、紀行文などに、戦場に住む現地の人々の経験や感情の動きが盛り込まれることはほとんどありません。しかし、彼らもまた当時の日本の兵士たちと戦争の経験を共有している存在です。今回の教科書テキストを読み、日本人の視点ではなく、戦場となった地域で生きた人々の視点から太平洋戦争を瞥見しましょう。

3. 読書ペーパーの問題文

「兵士としての日本人の戦争経験、戦場に住む現地の人々にとっての戦争経験にはどのようなものがあるか」という課題に関し、教科書テキストを読んで考えたり思いついたりした内容をまとめなさい。

（200 字～400 字程度）。

図 2 読書資料

表 1 事前課題の対象章と学習課題

授業回	授業タイトル	事前課題の対象章	事前課題で提示した学習課題
第 1 回	オリエンテーション		
第 2 回	先史時代の太平洋と日本の関わり	1～3、コラム 1	先史時代の資料から分かる太平洋と日本の関わりについて考える。
第 3 回	島々への進出	4～7、コラム 2	日本人が太平洋へ進出した歴史にはどのようなものがあるか。
第 4 回	日本人移民	8～11	日本人の南洋進出にはどのような記録があるか、どのような歴史的背景があるか。
第 5 回	日本の統治	12～15、コラム 3	日本人による南洋統治の歴史はどのようなものであったか。
第 6 回	植民地と文学	16～17、コラム 4	日本の植民地と文学や芸術との関わり of 歴史はどのようなものであったか。
第 7 回	近代の移民史	18～21、コラム 5	明治後期から太平洋戦争時までの日本人移民の歴史にはどのようなものがあるか。
第 8 回	太平洋戦争 (1)	22～26	兵士としての日本人の戦争経験、戦場に住む現地の人々にとっての戦争経験にはどのようなものがあるか。
第 9 回	太平洋戦争 (2)	27～30、コラム 6	戦場に行った・いた人々の戦争経験はどのようなものであったか。
第 10 回	太平洋戦争 (3)	31～33、コラム 7	太平洋戦争の記憶と歴史は、どのように語られ、記録されているのか。
第 11 回	戦後	34～38、コラム 8	太平洋戦争後、日本とかつて戦地であった地域との関わりはどのように変わったのか。慰霊巡拝、戦争遺跡観光、残留日本人兵士の帰還とはどのようなものなのか。
第 12 回	戦争の展示と記憶	39～43、コラム 9	戦争の歴史はどのように展示され、また人々に共有される記憶となっているのか。
第 13 回	外交と国際関係	44～46	太平洋戦争後、日本と太平洋諸国の外交と国際関係には、どのような動きが見られたか。
第 14 回	産業と経済	47～49、コラム 10	日本と太平洋諸国との間には、どのような産業および経済の関係が見られるか。
第 15 回	市民運動と国際協力	50～53	日本と太平洋諸国を関係づける市民運動や国際協力には、どのようなものがあるか。

表2 授業で解説したキーワード

授業回	授業タイトル	解説したキーワード	解説の概要
第1回	オリエンテーション		先史時代の人類の太平洋への移住と大航海時代の西洋人の進出という2点を中心にオセアニアの歴史を概説。
第2回	先史時代の太平洋と日本の関わり	オーストロネシア語族	言語学的な基礎説明と地理的分布を紹介。
		旧石器時代の航海	考古学的な基礎説明、実験航海も紹介。
		ミトコンドリアDNA分析	考古学的な基礎説明。
第3回	島々への進出	ビーチコマー	基礎説明とバウンティン号の反乱も紹介。
		白檀交易	歴史的な基礎説明。
		マナ	文化人類学的な基礎説明。
		ジョン万次郎	人物紹介。経歴。
		アウトリガーカヌー	写真を示して基礎的な説明を行った。
		司馬遼太郎	簡単な紹介。担当講師の読書歴。
		アホウドリ	基礎的な説明。吉村昭『漂流』も紹介。
		コプラ	基礎的な説明。パプアニューギニアのプランテーションも紹介。
	「酋長の娘」	動画サイトのリンクを示して視聴。	
第4回	日本人移民	柳田国男	人物紹介。経歴。方言圏論、松本清張『砂の器』。
		ハワイ王国	地勢、国勢、歴史を紹介。
		フィジー	地勢、国勢、歴史を紹介。
		宮本常一	人物紹介。経歴。
		マテオ・リッチの世界地図	写真を示して基礎的な説明を行った。
		オリエンタリズム	基礎的な説明。E.サイードの紹介。
		明治時代の日本人移民	木曜島の真珠取り潜水夫、ニューカレドニアのニッケル鉱山の労働者、からゆきさんを紹介。

第5回 日本統治	パラオ共和国	地勢、国勢、歴史を紹介。ニュース動画も紹介。	
	委任統治	信託統治との違いを含め、基礎的な説明をした。	
	軍属	語義の説明。	
	チャモロ文化	基礎的な説明。	
	北マリアナ	地勢、国勢、歴史を紹介。	
	ルイジアナ州、製糖地	サトウキビ栽培と製糖業が盛んになった歴史的経緯を簡単に紹介。	
	ハイチの奴隷と台湾農民	歴史的な基礎説明。川北稔『砂糖の世界史』、S.ミンツ『甘さと権力』も紹介。二林事件を簡単に紹介。	
	マーシャル諸島	地勢、国勢、歴史を紹介。ビキニ環礁の水爆実験も簡単に紹介。	
	サンゴ礁起源の島々	地理学的な基礎説明。	
	ハンセン病	基礎的な説明。	
	母系社会	文化人類学的な基礎説明。	
	米西戦争	歴史的経緯の説明。フィリピンへの影響についても紹介。	
	南洋踊り	動画サイトのリンクを示して視聴。	
	第6回 植民地と文学	土方久功	人物紹介。経歴。
		イタボリ	簡単な紹介。動画も紹介。
ア・バイ、ア・ケツ (はげ山)		簡単な紹介。	
国立民族学博物館		簡単な紹介。	
中島敦		人物紹介。経歴。	
中島敦の小説「鶏」		あらすじの紹介。当時の植民地支配の構造についても触れた。	
中島敦の小説「マリヤン」		同上。	
中島敦の小説「ナポレオン」		同上。	
第7回 近代の移民史	パプアニューギニア	地勢、国勢、歴史を紹介。	

	ナマコの好漁場	なまこについての簡単な紹介。鶴見良行『ナマコの眼』、赤嶺淳『ナマコを歩く』も紹介。
	白豪主義	基礎的な説明。D.P. Garimara "Rabbit-Proof Fence"も紹介。
	ニューカレドニア	地勢、国勢、歴史を紹介。
	「天国に一番近い島」	同名映画の予告動画を紹介。
	ニューカレドニアの日系人	基礎情報、関連映画の予告動画を紹介。
	トンガ王国	地勢、国勢、歴史を紹介。
	布哇	ハワイを指す語であると説明。
	火の神ペレ	ハワイの神話との関連について説明。
第8回	太平洋戦争 (1)	
	太平洋戦争の戦線の推移	左記について地図を使って全体の経緯を紹介した。
	真珠湾	簡単に紹介。関連映画の予告動画も紹介。
	マイケル・ソマレ	人物紹介、経歴。
	スパイ容疑をかけられ日本軍に殺された村人	左記の人物である、ラバウルのカトリック教会の説教師ピーター・トロットを紹介。
	ココダ・トレイル	簡単な紹介。
	ファジー・ワジー・エンジェルス	簡単な紹介。
	水木しげる	人物紹介、経歴。
	ガダルカナルの敗戦	簡単な紹介。
	ラバウル小唄	動画を紹介。
	「南洋オリエンタリズム」	第4回で解説した「オリエンタリズム」の資料を再掲。
	ソロモン諸島	地勢、国勢、歴史を紹介。
	「白人」	パプアニューギニアで使われているピジン語の waitman の概念を紹介。
第9回	太平洋戦争 (2)	
	先住系のフィジー人	オーストロネシアンの移住と関連づけて基礎的な説明をした。

	南太平洋大学	簡単な紹介。	
	モミ砲台歴史公園	簡単な紹介。	
	ギルバート諸島（現 キリバス共和国）	地勢、国勢、歴史を紹介。ベシオ島とブ タリタリ環礁についても簡単に紹介。	
	「出た出た月が… …」の歌	文部省唱歌「つき」の簡単な紹介。動画 も紹介。	
	キリバス・ダンス	動画の紹介。	
	バナバ島住民	歴史的経緯について簡単に紹介。	
	ツバル	地勢、国勢、歴史について紹介。動画も 紹介。	
	タロイモピット・ボ ローピット	簡単に紹介。	
	サイパン・ペリュリ ューの戦い	地図で位置を確認、映画「涙を呑んで」 の予告動画も紹介。	
第 10 回	太平洋戦争 (3)	バンザイクリフ	サイパン島の地図を提示。関連動画の紹 介。
		山県有朋	人物、経歴の紹介。
		琉球処分	歴史的経緯の説明。
		記憶のポリティクス	概念説明。米山リサ『広島』も紹介。
		ニューヘブリデス (ヴァヌアツ)	地勢、国勢、歴史について紹介。
		カウラ事件	簡単な説明。関連動画の紹介。
第 11 回	戦後	硫黄島	簡単な説明。映画『父親たちの星条旗』 の予告動画の紹介。
		高砂義勇隊	簡単な紹介。台湾原住民についての文化 人類学的な説明。映画「サヨンの鐘」 (李香蘭主演)の動画の紹介。
		6 柱の遺骨	遺骨の数え方を説明。
		日本戦没者遺骨収集 推進協会	簡単な説明。
		千鳥ヶ淵戦没者墓苑	簡単な説明。靖国神社も併せて説明。
		ダークツーリズム	簡単な説明。ヘルメット・レックについ ても説明。

	横井氏が自製した軍服	写真を示して簡単に説明。
	マッドメン	関連動画の紹介。
第 12 回 戦争の展示と記憶	山本五十六	人物紹介、経歴。阿川弘之『山本五十六』も紹介。真珠湾攻撃の作戦立案についても説明。
	佐々木禎子	人物紹介。長崎原爆資料館についても説明。
	「日系人部隊」第 442 連隊	概要を説明。ダニエル・イノウエについても紹介。ドキュメンタリー『ワシントンへの道』の予告動画も紹介。
	ペルーのフジモリ元大統領	アルベルト・フジモリの人物紹介。
	ミクロネシア連邦	地勢、国勢、歴史を紹介。
	ススム・アイザワ	人物紹介。
	首長	文化人類学的な概念的説明。酋長、王との違いも説明。
	母系社会	文化人類学的な説明。世界の分布も紹介。
第 13 回 外交と国際関係	太平洋・島サミット	概要紹介。関連動画の紹介。
	珠算教育	トンガの珠算教育についての補足説明。そろばん教室の練習風景の動画も紹介。
	ツバル・オーバービュー	ウェブサイトの紹介。
	第 9 回の受講者の感想。「ツバルの国土が増えているのに驚いた」。	ツバルの海岸浸食について補足説明。地球環境問題に関連したアル・ゴアの動画紹介。
第 14 回 産業と経済	資源外交	概念の説明。
	FAD (集魚装置)	図を用いた基本的な説明。
	ナウル協定	地図を用いた基本的な説明。

	ナウルのリン鉱石	ナウルの地勢、国勢、歴史について紹介。リン鉱石の採掘の歴史的経緯を紹介。1977年の朝日新聞によるナウルの紹介記事も紹介。ナウル症候群も紹介。現在のナウルについての関連動画の紹介。	
	エクソンモービル	概要の説明。	
	フェレティ・セベレ	簡単な人物紹介。	
	ガダルカナル島の紛争	経緯の紹介。	
第15回	市民運動と国際協力	ゴジラ	映画「ゴジラ」第1作の予告編の紹介。
		バートランド・ラッセル	人物紹介。
		バグウォッシュ会議	概要の紹介。
		ユネスコ世界文化遺産	世界文化遺産の基礎情報の紹介。オセアニアの世界文化遺産の紹介（レブカの歴史的港町、ビキニ環礁核実験場、ロックアイランド群と南ラグーン、ナンマトル遺跡、クックの初期農業遺跡、ロイ・マタ首長の領地、ラパ・ヌイ国立公園、タブタプアテア）。